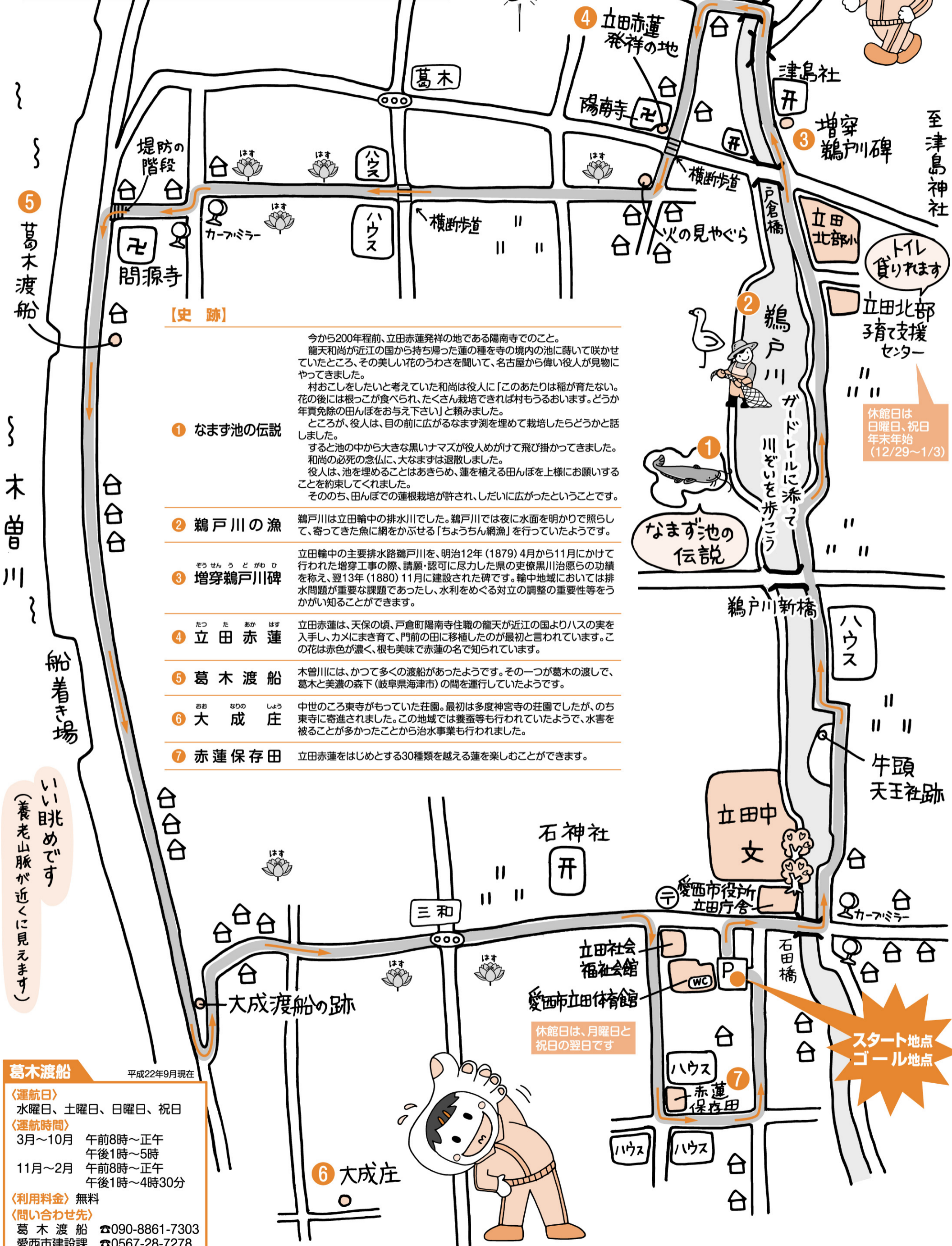


# 立田地区を歩く 北コース



### 【史跡】

- 1 なます池の伝説**

今から200年程前、立田赤蓮発祥の地である陽南寺でのこと。龍天和僧が近江の国から持ち帰った蓮の種を寺の境内の池に蒔いて咲かせていたところ、その美しい花のうわさを聞いて、名古屋から偉い役人が見物にやってきました。村おこしをしたいと考えていた和尚は役人に「このあたりは稲が育たない。花の後には根っこが食べられ、たくさん栽培できれば村もうるおいます。どうか年貢免除の田んぼをお与え下さい」と頼みました。ところが、役人は、目の前に広がるなます淵を埋めて栽培したらどうかと話しました。すると池の中から大きな黒いナマスが役人めがけて飛び掛かってきました。和尚の必死の念仏に、大なますは退散しました。役人は、池を埋めることはあきらめ、蓮を植える田んぼを上様をお願いすることを約束してくれました。そののち、田んぼでの蓮根栽培が許され、しだいに広がったということです。
- 2 鵜戸川の漁**

鵜戸川は立田輪中の排水川でした。鵜戸川では夜に水面を明かりで照らして、寄ってきた魚に網をかぶせる「ちょうちん網漁」を行っていたようです。
- 3 増穿鵜戸川碑**

立田輪中の主要排水路鵜戸川を、明治12年(1879)4月から11月にかけて行われた増穿工事の際、請願・認可に尽力した県の吏僚黒川治愿らの功績を称え、翌13年(1880)11月に建設された碑です。輪中地域においては排水問題が重要な課題であったし、水利をめぐる対立の調整の重要性等をうかがい知ることができます。
- 4 立田赤蓮**

立田赤蓮は、天保の頃、戸倉町陽南寺住職の龍天が近江の国よりハスの実を手し、カメにまき育て、門前の田に移植したのが最初とされています。この花は赤色が濃く、根も美味で赤蓮の名で知られています。
- 5 葛木渡船**

木曽川には、かつて多くの渡船があったようです。その一つが葛木の渡して、葛木と美濃の森下(岐阜県海津市)の間を運行していたようです。
- 6 大成庄**

中世のころ東寺がもっていた荘園。最初は多度神宮寺の荘園でしたが、のち東寺に寄進されました。この地域では養蚕等も行われていたようで、水害を被ることが多かったことから治水事業も行われました。
- 7 赤蓮保存田**

立田赤蓮をはじめとする30種類を越える蓮を楽しむことができます。

休館日は日曜日、祝日、年末年始(12/29~1/3)

なます池の伝説

スタート地点  
ゴール地点

船着き場

いい眺めです  
(養老山脈が近くに見えます)

**葛木渡船** 平成22年9月現在

〈運航日〉  
水曜日、土曜日、日曜日、祝日

〈運航時間〉  
3月~10月 午前8時~正午  
午後1時~5時  
11月~2月 午前8時~正午  
午後1時~4時30分

〈利用料金〉無料

〈問い合わせ先〉  
葛木渡船 ☎090-8861-7303  
愛西市建設課 ☎0567-28-7278

休館日は、月曜日と祝日の翌日です